

受験容認「何年かかるか」

性別変えプロテスト 真道、心境複雑

男子ボクサーでのプロ挑戦表明から1年あまり。元女子世界王者で性別変更をして現役復帰した真道ゴウ(グリーンツタ)は19日、日本ボクシングコミッション(JBC)のプロテスト受験が見送られ、「異議申し立てする気はない。決まったことをまず受け止める」と無念そうに語った。

試合の準備はしていない」とし、実施しないという。男子選手とパンチ力などを比較した昨年の検査では、男子の現役日本ランカーを上回る数値も出していたという。JBCは準公式試合で安全性が実証されれば、プロテストを容認する可能性も示す。しかし、真道は「リングに上がるチャンス

をプラスに捉えたい」と話しつつ、「(プロテスト受験容認まで)何年かかるか分からない」と複雑な心境も吐露した。本石会長は「残念と捉えるか一歩踏み出せたか捉えるか難しい。真道は昨日で36歳になり、残された時間は少ない。どういう選択をしようか、決断に寄り添う」と話した。

あったという。準公式試合を踏めばプロテスト受験も見えてくる。とは言え、36歳の真道の選手寿命は限りがある。性同一性障害学会理事長の中塚幹也・岡山大教授は「元女子世界王者が駄目では次が続かない。ま

ず真道選手の受験を認めてほしかった」と指摘する。性別変更した男子選手が認められた例は、国内では

競艇しかない一方、米国では元女子アマチュア全米王者が男子プロボクサーとしてデビューしている。選手の安全確保は大前提だ。ただ、男性から女性への性別変更は競技の公平性を損なう恐れがあるが、その逆である真道は、JBCの諮問委員会も「プロテスト受験資格を認めることは可能」と答申している。

先駆者不在ではデータは集まらない。トランスジェンダーの男子選手が自身有望む性別で戦えるよう、JBCには議論を深めてほしい。(後藤静華)

◆寺地、中谷が9月にダブル世界戦 ボクシングのダブル世界戦が9月18日、東京・有明アリーナで行われることが19日、発表された。世界ボクシング協会(WBA)、世界ボクシング評議会(WBC)、ライトフライ級王者の寺地拳四朗(BMB)はWBC同級1位のヘツキ・ブドラー(南アフリカ)と、世界ボクシング機構(WBO)スーパーフライ級王者の中谷潤人(M・T)は同級9位のアルヒ・コルテス(メキシコ)と防衛戦を行う。那須川天心(帝拳)はデビュー2戦目に臨み、スーパーバンタム級8回戦でファン・フロレス(メキシコ)と対戦する。

◆アジア大会団長に尾島氏 日本オリンピック委員会(JOC)は19日、理事会を開き、今秋に中国・杭州で行われるアジア大会の日本選手団団長にJOC専務理事の尾原貢氏(64)を起用することを決めた。主将の役割も担う男女各1人の旗手は今後選考する。28日に開幕する世界ユニバーシティ大会(中国・成都)の旗手は体操男子の橋本大輝(順大)、陸上女子の山本亜美(立命大)に決まった。

◆樋口が強化選手Aに 日本スケート連盟は19日、今年度のフィギュアスケートの強化選手を決定し、昨季は休養した樋口新葉(フエビア)が特別強化選手に次ぐ強化選手Aに入った。

◆卓球・WTT女子ファイナルズを名古屋で開催 卓球の世界ランキング上位選手による国際大会「ワールドテニス」(WTT)女子ファイナルズを12月15〜17日に名古屋市中区で開くと19日、WTTが発表した。今季のWTT最終戦となるシングルスは世界ランキング上位16人、ダブルスは同8組が出場する。

真道が挑戦を表明した昨年4月以来、JBCには複数の選手から同様の相談が

真道は大阪市内で記者会見。同席したジムの本石昌也会長によると、JBCから8月の自主興行で、3ラウンド程度と短いながら公式戦と同じ形で勝敗をつける男子選手との準公式試合開催を打診されたが、「テストの準備はしていたが、

門戸開放議論 JBC深めて



門戸は開かれなかった。しかし、閉ざさなかつたという点では、少なからず前進といえる結論だ。

真道が挑戦を表明した昨年4月以来、JBCには複数の選手から同様の相談が